

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : グリース
H090005-00
用途 : スライドシャフト用潤滑剤
会社名 : ノーリツプレシジョン株式会社
住所 : 和歌山県和歌山市梅原579-1
担当部門 : 品質保証課
連絡先 : 電話番号 (073-456-3969) FAX番号 (073-456-3991)
E-mail (msds@nkc.noritsu.co.jp)

2. 危険有害性の要約

GHS分類(JIS Z7253:2012対応) : GHS分類基準に該当しない。

上記で記載がない危険有害性は分類対象外か分類できない。

ラベル要素 絵表示 : なし
注意喚起語 : なし
危険有害性情報: 現在のところ有用な情報なし
注意書き 【安全対策】 : なし
【救急処置】 : なし
【保管】 : なし
【廃棄】 : なし

GHS分類による上記注意書きに記載がない場合でも、以降の情報を参考に安全対策/救急処理/保管/廃棄に関し十分な配慮を行うこと。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物
化学名又は一般名 : グリース
別名 : Lubricating Grease

内容成分 基油 : 合成炭化水素油 70~80wt%
増ちょう剤: リチウム石けん 5~15wt%
その他 : 添加剤 15~25wt%

化学式又は構造式 : 特定できない

官報公示整理番号(化審法、安衛法) : 企業秘密なので記載できない。
CAS No : 企業秘密なので記載できない。
国連分類及び国連番号 : 該当しない
労働安全衛生法 : 第57条の2 通知対象物質
政令番号 第168号 鉱油 0.1~0.5wt%
PRTR法 : 該当しない

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移す。体を毛布などでおおひ、保温して安静を保ち、必要なら医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 水と石鹼で付着した部分を洗う。
- 眼に入った場合 : 清浄な水で最低15分間目を洗浄した後、医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 無理に吐かせないで、直ちに医師の手当てを受ける。口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。
- 最も重要な徴候及び症状 : 現在のところ有用な情報なし。
- 応急措置をする者の保護 : 現在のところ有用な情報なし。
- 医師に対する特別注意事項 : 現在のところ有用な情報なし。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消火剤が有効である。
: 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。
: 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状の水を用いてはならない。火災を拡大し危険な場合がある。
- 火災時の特有の危険有害性 : 現在のところ有用な情報なし。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断つ。
: 周囲の設備等に散水して冷却する。
: 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際には、風上から行き必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 作業の際には、必ず防護具を着用する。
- 環境に対する注意事項 : 河川、下水道等に排出されないように注意する。
: 海上の場合、薬剤を用いる場合には運輸省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。
- 封じ込め及び浄化の方法 : 周辺の着火源を取り除く。
- 少量の場合 : ヘラ、スコップ等で除くか、土砂やウエス等に吸着させ回収し、その後を完全にウエス等で拭き取る。
- 大量の場合 : 漏洩した場所の周辺にはロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。
: 漏洩したグリースは土砂等でその流れを止め、安全な場所に導いた後、出来るだけ空容器に回収する。
- 海上の場合 : オイルフェンスを展開して拡散を防止し、すくい取るかまたは吸着マット等で吸い取る。薬剤を用いる場合には運輸省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。
- 二次災害の防止策 : 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
: 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い 技術的対策 : 炎、火花又は高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。
: 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性のものを用いる。
: 機械設備などを修理又は加工する場合は、安全な場所において完全に除去してから行う。
: 食べない。
: 皮膚に触れるか、目に入る可能性がある場合は、防護具を着用する。
: ミストが発生する場合呼吸器具等を使用してミストを吸入しないこと。
: 容器は必ず密閉する。
- 注意事項 : 製品から発生した蒸気は空気より重いので滞留しやすい。そのため換気および火気などへの注意が必要である。

| | |
|------------|---|
| 安全取り扱い注意事項 | : 常温で取り扱うものとし、その際、水分・きょう雑物の混入に注意する。 : ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。 |
| 保管 | : 直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。 : 熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避ける。 : 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。 : ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。 : 空容器に圧力をかけない。 : 容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。爆発を伴って残留物が発火することがある。 |

8. 曝露防止措置

| | |
|------------|---|
| 設備対策 | : ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。 : 取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。 |
| 管理濃度 | : 設定されていない。 |
| 許容濃度 | : 日本産業衛生学会(2013年度版) 3mg/m ³ (鉛油ミストとして) : ACGIH(2013年度版) 時間加重平均(TWA)値 5mg/m ³ (鉛油ミストとして) |
| 保護具 | |
| 呼吸器用の保護具 | : 通常不要であるが、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。 |
| 手の保護具 | : 長期間又は繰り返し接触する場合には耐油性のものを着用する。 |
| 目の保護具 | : 飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | : 長期間にわたり取り扱う場合又は濡れる場合には、耐油性の長袖作業着等を着用する。 |
| 適切な衛生対策 | : 濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | | |
|--------------|----|---------------------------|
| 外観 | 形状 | : 半固体 |
| | 色 | : 白色 |
| 臭気 | | : 微臭 |
| pH | | : データなし |
| 融点・凝固点 | | : データなし |
| 沸点・初留点及び沸騰範囲 | | : データなし |
| 引火点 | | : 200°C以上(SETA) |
| 爆発限界 | | : 上限: 7容量% 下限: 1容量% (推定値) |
| 蒸気圧 | | : データなし |
| 蒸気密度 | | : データなし |
| 比重(水=1) | | : 約0.95 |
| 溶解性 | | : 水 : 不溶 その他溶媒: 不溶 |
| 自然発火温度 | | : データなし |
| 分解温度 | | : データなし |
| 粘性率 | | : データなし |

10. 安定性及び反応性
- 安全性 : 室温では安定
 - 危険有害反応危険性 : 強酸化剤との接触を避ける
 - 避けるべき条件 : 加熱、高温、混触危険物質との接触
 - 混触危険物質 : ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
 - 危険有害な分解生成物 : 260℃以上でポリマーフェームフィーバーの原因となる微粒子が発生し、400℃以上で分解し、有毒なフッ化水素、フッ化カルボニルなどが発生する。
 - その他 : 現在のところ有用な情報なし。
11. 有害性情報
- 急性毒性 : 経口 : ラットLD₅₀≥5000mg/kg (基油)
吸入(蒸気) : データなし
吸入(ミスト) : データなし
 - 皮膚腐食性・刺激性 : 現在のところ有用な情報なし
 - 眼に対する重篤な損傷・刺激性 : 現在のところ有用な情報なし
 - 呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 現在のところ有用な情報なし
 - 生殖細胞変異原性 : 現在のところ有用な情報なし
 - 発がん性 : 基油 : IARC、OSHA、NTP、EU、EPA、ACGIH、日本産業衛生学会の発がん性物質のリストには収録されていない
増ちょう剤 : 現在のところ有用な情報なし
添加剤 : 現在のところ有用な情報なし
 - 生殖毒性 : 現在のところ有用な情報なし
 - 特定標的臓器・全身毒性-単回曝露 : 現在のところ有用な情報なし
 - 特定標的臓器・全身毒性-反復曝露 : 現在のところ有用な情報なし
 - 吸引性呼吸器有害性 : 現在のところ有用な情報なし
12. 環境影響情報
- 生態毒性 : 魚毒性 : 現在のところ有用な情報なし
その他 : 現在のところ有用な情報なし
 - 残留性・分解性 : 現在のところ有用な情報なし
 - 生体蓄積性 : 現在のところ有用な情報なし
 - 土壌中の移動性 : 現在のところ有用な情報なし
 - 他の有害影響 : 現在のところ有用な情報なし
13. 廃棄上の注意
- 残余廃棄物 : 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
: 投棄禁止
: 埋立処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。
: 燃焼する場合には、安全な場所で、かつ、燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。
 - 汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

| | | |
|----------------|------------|------------------------------------|
| 国際規制 | 国連分類 | : 国連の分類基準に該当しない |
| | 国連番号 | : 該当なし |
| | 品名(国連輸送品名) | : 該当なし |
| | 容器等級 | : 該当なし |
| | 海洋汚染物質 | : 該当なし |
| 国内規制 | 陸上 | : 消防法 危険物に該当しない |
| | 海上 | : 船舶安全法 危険物に該当しない 個別運送及びばら積み運送に於いて |
| | 航空 | : 航空法 危険物に該当しない |
| 輸送の特定の安全対策及び条件 | | : 容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する |

15. 適用法令

| | |
|----------------------|--------------------------------|
| 労働安全衛生法 | : 通知対象物質 法第57条の2、施行令第18条の2別表第9 |
| 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) | : 該当しない |
| 化審法 | : 既存化学物質名簿への収載 |
| 毒物及び劇物取締法 | : 該当しない |
| 消防法 | : 危険物には該当しない |
| 水質汚濁防止法 | : 油分排出規制(5mg/L 許容濃度) |
| 海洋汚染防止法 | : 油分排出規制(原則禁止) |
| 下水道法 | : 鉱油類排出規制(5mg/L) |
| 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | : 産業廃棄物規則(拡散、流出の禁止) |

16. その他の情報

ご使用前によくSDSをお読みください。

この安全データシートは、我々が知り得た最新の情報を基に作成しておりますが、安全を保証するものではありません。

危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者を提供されるものです。

取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。